

## 大人塾最終回ワークショップ

平成 23 年度 すぎなみ大人塾 昼・夜合同成果発表会

平成 24 年 3 月 3 日 (土) 午後 15 時 15 分 ~

1 ワールドカフェの交流会概要 (記録が取れたものを中心にまとめました)  
進行 広石拓司

それでは、これからワークショップを進めたいと思います。ワールドカフェという方法でやっていきますが、みなさん御存知でしょうか？それぞれのテーブルについて頂いて、自由に話し合ってください。テーブルには、リーダー役の方がいます。ジャンパーを着ているので、すぐにわかりますね。テーブルには、A,B,C とトピックごとに分かれています。まずは、どこでもよいのでテーブルについてください。



話し合いながら、おもったことや「あ、いい意見だな」と感じたら、どんどん下に敷いてある紙に書き込んでください。あとで、席を移動したときに、次にグループに来た人たちが、どんな内容がでたのか参考にできますし、いい意見をほかの人にも伝えられます。

さて、今回のトピックは

A:「3.11当日に見たもの、したことは？」

B:「3.11以降するようになったことは？  
(人間関係、付き合い方など)」

C:「私たちは、今、何をしておかなくてはならないのか？」

震災から、もうすぐ1年。みなさん、どんな体験をしたのか思いだしてみてください。そして、これからはどうしていくのか。お互いの意見を聞きながら、話し合ってください。実は、今回のトピックと同じものを他の場所でもやっています。被災地でも、同じようにワールドカフェで話し合っています。今日、みなさんから出た意見やアイデアは被災地の方に届けられます。震災の記憶をとどめるとともに、これからの行動に関することや、アイデアは多くの人に役立つと思います。

時間は、こちらで区切りますのです。まずは自己紹介からはじめてください。それでは、スタートです。

## A:「 3 . 1 1 当日に見たもの、したことは？」

恐怖と努力を感じました。恐怖は、なんといっても揺れです。それと、揺れに恐怖している家族や TV に写る人々。他人の恐怖は伝染するんだと感じました。家の外には、帰宅困難になった方がとぼとぼと歩いていました。ようやく、おさまってから近所の方に声をかけはじめましたが、最初のうちは助けるというよりも、怖かったのを伝え合うだけでした。それでも、安心したのはやはり人間だからでしょう。

ビルが揺れているのを初めて見ました。思えば、初めて見るものばかりでしたね。電車から降りて駅の外に誘導される人々、シャッターを締め切る駅ビル。商店街もどこも閉店していました。モノが盗まれるからというよりも、商売を出来ないから閉めたと思います。歩いている人々をみて、ここもかつては街道と呼ばれていたんだなと後で思い出しました。でも、起きた当時は、ただただ非日常に驚いていたのです。

家の様子を写真におさめました。こんなことは、二度とないと、ある意味で記念として撮ったのですが、思わぬところで役に立ちました。保険の証明書を書く際に、証拠となってくれたのです。それにしても、後片付けが大変でした。食器を片付けたら、バケツ2杯分にもなったのです。

初めてTVに釘付けになりました。現地の様子を見ていると涙もあふれるし、見たくはないのですが、正しい情報を得ないといけないので、結局ずっと見ていました。

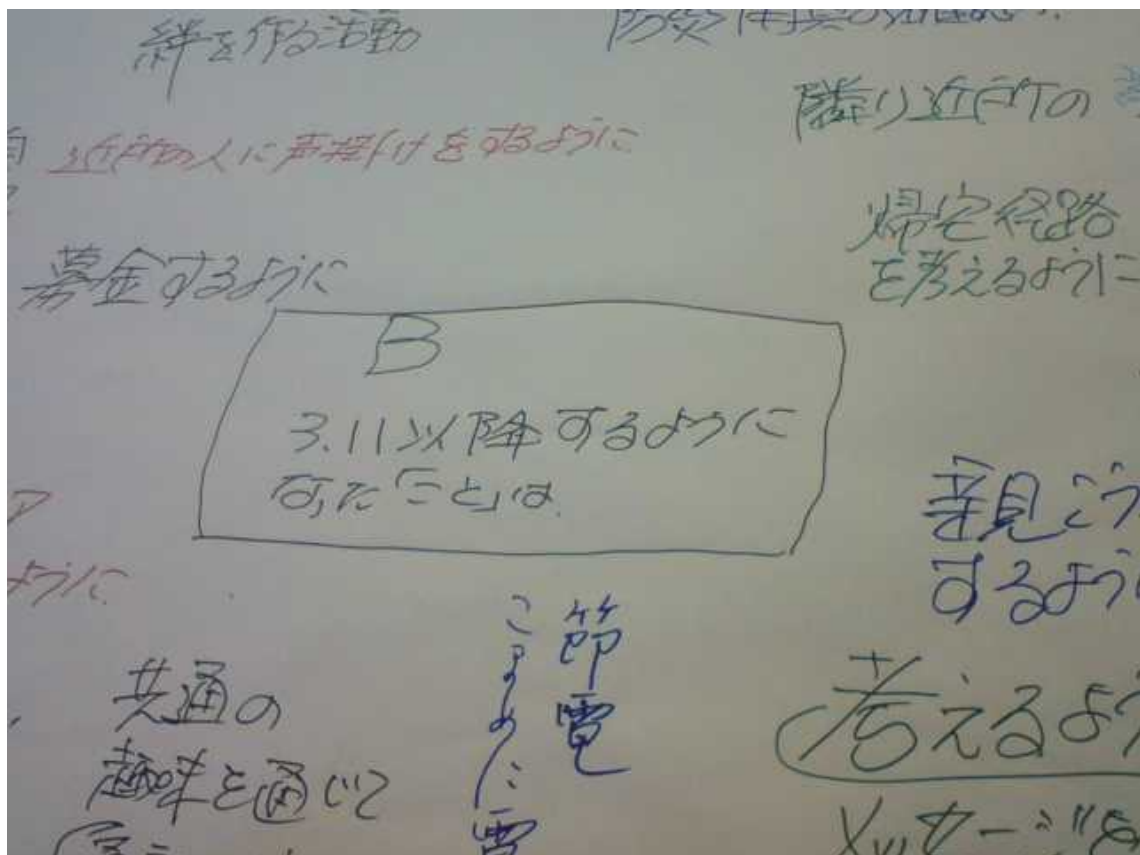
## B:「3.11以降するようになったことは？ (人間関係、付き合い方など)」

地域のバザーに参加するようになりました。いままでは、開催しているのは知っていましたが、参加する気にはならなかったのです。

被災地に物資を送りました。これくらいしか出来ませんが、すぐにやらないと思ったのです。

ボランティアに登録しました。地域活動は、なんとなくやっていましたが、自発的に入ったのは初めての経験です。

隣の家のベルを直しました。ベルが壊れていては、安否確認もできませんから。



## C: 「私たちは、今、何をしておこななくてはならないのか？」

避難所に気をつけるようになりました。避難所の位置、広さ、かかる時間など、事細かに情報を得ました。

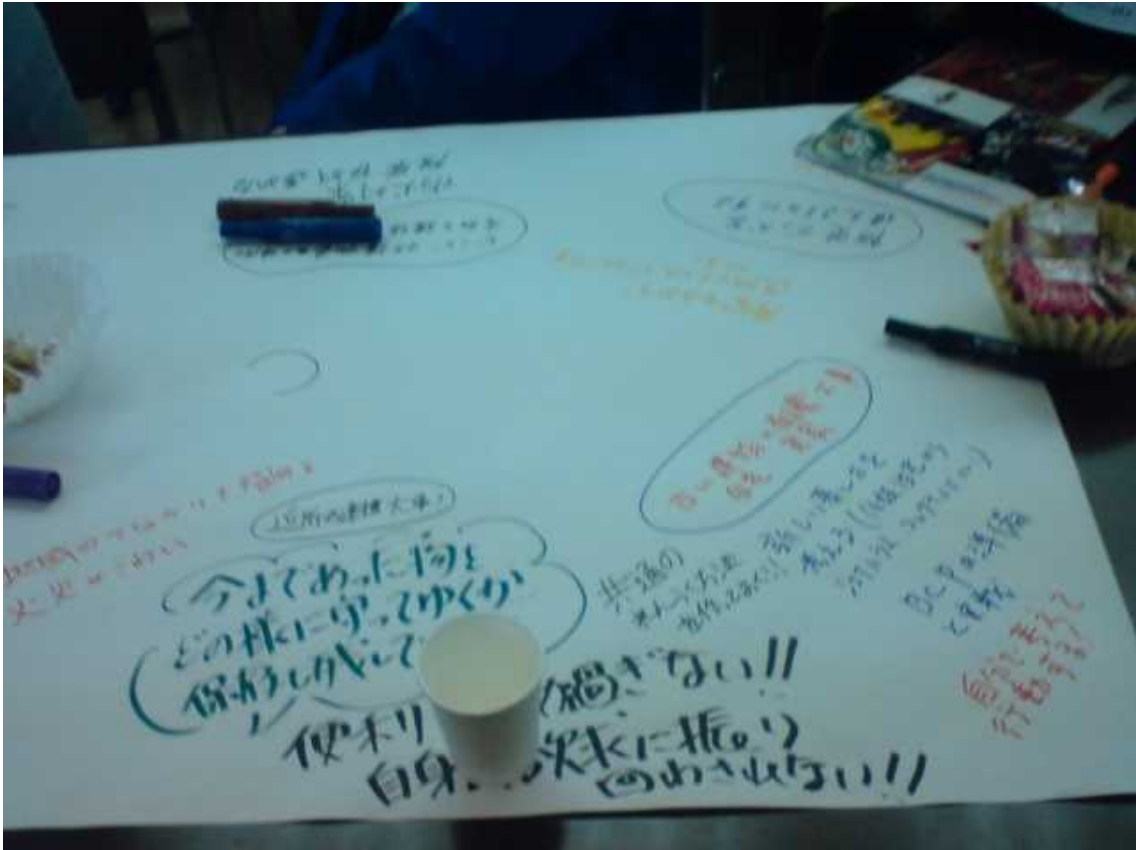
世代間のギャップを感じました。お年寄りには逃げられないうえに、必要な情報を得られません。若い人は、逃げられるけれど、周りにどれくらい手助けが必要なのか知らないのです。そもそも、近所づきあいが少なかったり、世代間の交流が少ないからだと思いますが。

保存食を作るようになりましたが、食の原点に戻った気分です。保存できるものを作る、保存する、食べる。これらのサイクルが出来ることが、日本の食なのではと思います。保存食の作り方はぜひ普及させたいです。

新しい暮らし方が必要だと思います。1人暮らし、核家族、見守りが必要なお年寄りなど暮らし方はさまざまですが、1つの家に他人同士で暮らし、共同しながら生活するのも新しい選択肢だと思います。また、燃料やエネルギーについても考えなくてはなりません。

情報の集め方と発信です。私は、どちらも十分にできましたが、災害のときには情報の見極めが大事です。デマをつかんだら困ります。デマを知らずに発信すれば、他の方の迷惑にもなるからです。

正しいものは何かを知ることだと思います。地下鉄で、すぐに駅ビルのシャッターが降ろされ、帰宅困難の方は駅で休むことはできずに、そのまま帰りました。線路を通った方が早いし、困った人がいるのに目の前でシャッターを閉めるなんてひどいと言われていましたが、実は人々の安全確保のために止むを待たず閉めたそうです。電車が倒れたり、電線が切れたら危ないですから。こうして、私たちの身を守っている方がいる一方で、東電のように自分さえよければの会社もあります。何が正しいのかをきちんと知る教育が大事だと思います。



広石

それでは、別の班にうつってください。できるだけ、別のカテゴリーに行ってみると、新しい発見があると思います。もし、どうしても言い足りないことがあるのなら、同じカテゴリーで続けてみるのも良いです。それでは、移動してください。

## A:「3.11当日に見たもの、したことは？」

TVで地震をみました。その日から、ニュースに釘付けです。速報に注意し、携帯電話の地震速報にも登録しました。携帯の警報音がなるたびに、ビクッとしました。帰宅難民の方をみて、改めて都市に昼間にやってくる人々の多さを実感しました。

霞ヶ関から人が完全にいなくなりました。ゴーストタウンのようでした。帰る途中には、機能不全に陥った町。都市に住む怖さを知りました。

団地の安否確認が、なかなか着ませんでした。外にでるのが怖かったですからしかたありません。当日は、集会所で寝ました。たまたま、訪れた先が団地だったから良かったのですが。

街路樹につかまりました。保育園の迎いで、地震にあって、一番しっかりしたものを探したら街路樹だったんです。道路でトラックが揺れているのを見ると、地震の強さを感じました。

大型店舗がすぐにシャッターを閉めていました。泊まることできなくても、トイレを貸してくれたり、水を売ってくれても良いと思うのです。商店街の小さな店の方が、逆に積極的に助けてくれました。一生忘れられない光景です。



B:「3.11以降するようになったことは？  
(人間関係、付き合い方など)」

リュック、クツをそろえました。何はともかく、逃げ出す用意はしなければなりませんから。

気仙沼など東北に行きました。

思ったことは即行動を、実行するようになりました。元々、やっていたほうですが、震災以降は拍車がかかりました。何かあって後悔するよりも、やった方が得ですから。

まだ、何もしていません...

放射能について話し合うようになりました。こんなに原発が多いなんて知らなかったです。体内被曝や放射性物質の入った食べ物なども気をつけるようになりました。

C:「私たちは、今、何をしておかなくてはならないのか？」

自立する心構えを持つべきです。いざとなったら、判断するのは自分です。迷惑をかけないように、自分でも動けるようにあります。



ベッドの横にはヘルメットをおきましょう。たったこれだけでも、被害にあわなくて済むはず。そんなに高いものではないですし、部屋に置いてあっても邪魔にはなりません。

親孝行を考えます。今しかできないと本当に思いました。親がなくなるかもしれないし、自分がなくなるかもしれないですから。こんな切羽詰まった気持ちは初めてです。でも、不思議とプレッシャーというよりも、親孝行をする理由ができたようにも思えます。いままでも、孝行はしてきましたが、これからは遠慮なくできると思うのです。

家族の避難場所を決め、私は常に水と薬を持つようにしています。自分の身は自分で守ることの大切さを認識しました。それと、自分の弱さも実感です。薬がないだけで、具合はどうしても悪くなります。震災時には、すぐに薬は手に入りませんし、最低限は自分で備えは必要だと思えます。

